

# Vol.79 / 新春号

令和6年(2024年)2月1日発行  
(年3回7・11・2月発行)

# ひま

## 日農工会報

# わり



### 年頭所感

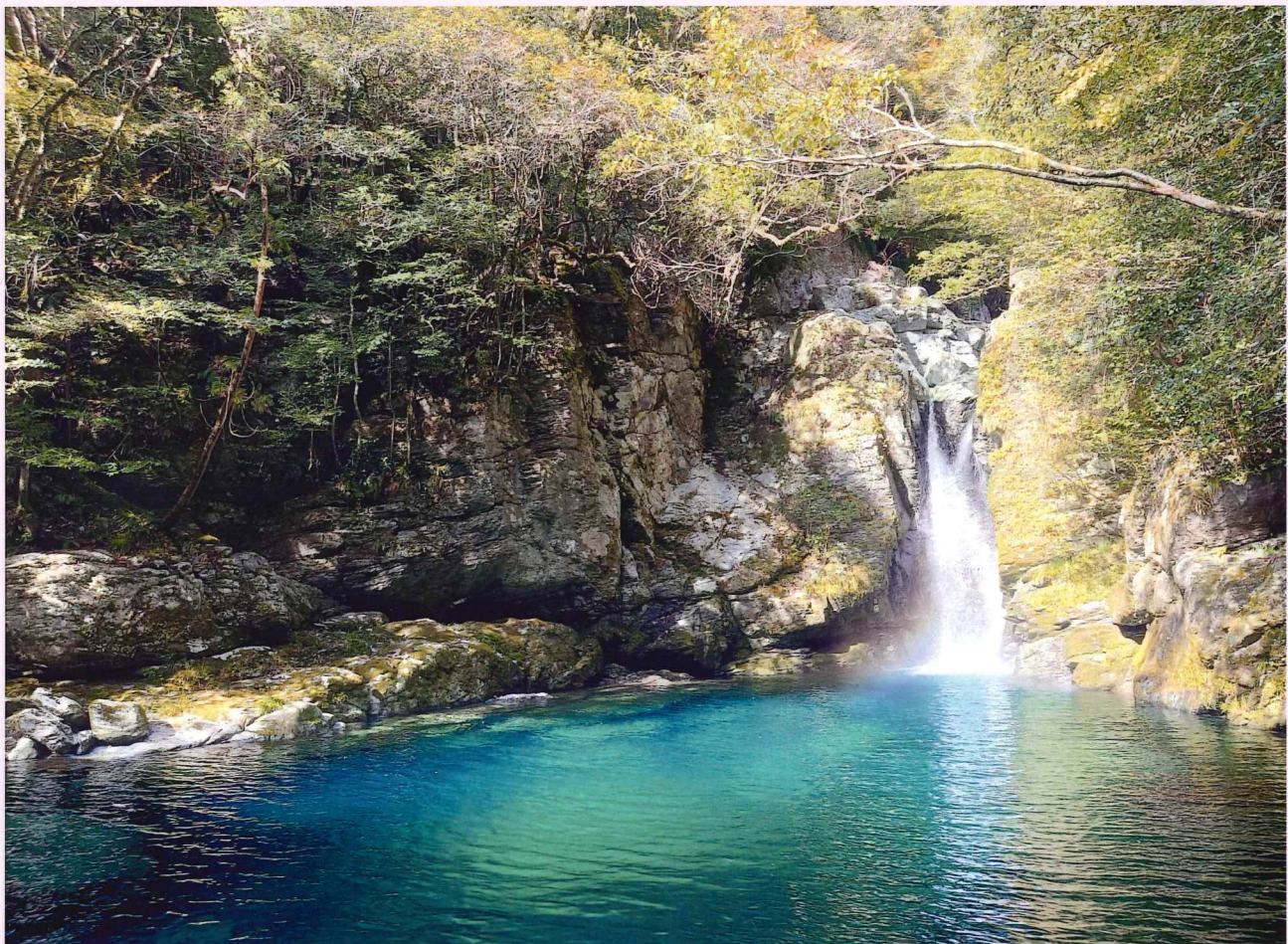
日農工会長  
経済産業省 製造産業局長  
経済産業省 産業機械課長  
農林水産省 技術普及課長  
農研機構 農業機械研究部門所長



### ISO/TC23/SC6 会合出張報告



### 農業機械に関連する令和6年度 予算概算要求について



CONTENTS

<b>年頭挨拶</b>	
◆ 年頭のご挨拶 (一般社団法人日本農業機械工業会会長 木股昌俊)	1
◆ 年頭所感 (経済産業省製造産業局長 伊吹英明)	3
◆ 年頭所感 (経済産業省製造産業局産業機械課長 安田 篤)	6
◆ 年頭所感 (農林水産省農産局技術普及課長 吉田 剛)	7
◆ 年頭所感 (農研機構農業機械研究部門所長 安原 学)	8
<b>健康相談</b>	10
<b>フォトギャラリー</b>	11
<b>令和5年全国農作業安全確認運動ポスター</b>	14
<b>ISO/TC23/SC6 会合出張報告</b>	
一般社団法人日本農業機械工業会 常務理事 川口 尚	15
<b>BREAKTIME ~ ルイボスティ~</b>	19
<b>農業機械に関連する令和6年度予算概算要求について</b>	20
<b>日農工だより</b>	22

表紙写真 : にこ淵 (高知県いの町)

仁淀川の支流にあたる「枝川川」にある観光スポット  
水面は時間帯や季節によって幻想的に変化し、「仁  
淀ブルー」とも呼ばれている



# 年 頭 の ご 挨 拶

木 股 昌 俊

一般社団法人日本農業機械工業会 会 長



謹んで新年のお慶びを申し上げます。

新年早々、能登半島地震が発生し、石川県を中心とした北陸地方に甚大な被害をもたらしました。お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された方々に対しまして心よりお見舞い申し上げます。

また、平素より日農工にお寄せいただいております皆様方のご支援とご厚情に厚く御礼申し上げます。

年頭に当たり、日本農業の発展と皆様方のご隆盛・ご多幸をお祈り申し上げます。

令和2年以来長く続いたコロナ禍も、昨年には感染症法における位置づけが2類から5類に変わり、社会経済活動はようやく正常化しつつあります。

昨年12月の内閣府・月例経済報告によりますと我が国の景気は、「このところ一部に足踏みもみられるが、緩やかに回復している。」とされており、雇用・所得環境が改善する下で緩やかな回復が続くことが期待されています。一方、世界に目を向けると、世界的な金融引締めや中国における不動産市場の停滞に伴う影響、物価上昇等による下振れリスクに加え、中東地域をめぐる情勢、金融資本市場の変動の影響を注視する必要があります。

このような中、国内農業は大きな変化を迎えております。基幹的農業従事者数は2000年からの20年間で半減し、その年齢構成は70歳以上層が過半となっていることから、今後、基幹的農業従事者の数は急減することが確実であり、労働力不足が深刻な問題となっております。

このような農業構造の急速な変化に対応し、食料の安全保障を図るため、政府は、ロボット、AI、IoTなど先端技術を活用したスマート農業の社会実装を進めており、当工業会といたしましても、ロボット農機をはじめとする農業機械の高度化と現場への導入を着実に進めるとともに、オープンAPIの推進などを通じて、日本農業の諸課題解決に貢献して参りたいと考えております。

また、SDGsや環境を重視する国内外の動きが加速していく中、政府は、農業の生産力向上と持続性の両立をイノベーションにより実現する「みどりの食料システム戦略」を策定し、2050年までに農林水産業のCO<sub>2</sub>ゼロエミッション化を実現させるという目標を打ち出しました。

農機業界といたしましては、関係業界と連携して電動化や燃料のカーボンニュートラル化などへの取り組みを通じて、この目標達成に貢献して参りたいと考えております。

このほかにも、欧米等における化学物質規制の動き、軽油を燃料とする特殊自動車に対する排ガス規制など、農機業界が対応を迫られている新たな課題が次々と出現しており、これらにも積極的に取り組んで参る所存です。

加えて、農作業安全は農機業界にとっても重要な課題であることから、安全な農業機械の供給に努めるとともに、農業者に対する安全意識の啓発や、安全に農業機械をご利用いただくための使い方の周知などについて、行政と協力し、引き続き注力して参りたいと考えております。

私ども農機業界の状況を日農工統計から見てみますと、昨年1月から11月までの累計生産・出荷実績は、生産額が3,815億円と前年同期比95%、出荷額が3,895億円、同93%と、前年を下回る実績で推移しました。

農業資材価格の高騰、気象災害による収量と品質の悪化等により小規模農家の機械投資意欲が減退している一方、担い手層への農地集積により大型機種需要が増加していることなどから、国内向けの出荷額は、2,275億円と同104%と増加しております。

農機業界を取り巻く状況は、原材料調達の遅れや原材料価格の高騰、異常気象の常態化など、依然として厳しいものがありますが、農業機械が「農業者を支える、より頼もしいパートナー」として、生産性向上の要を担い、しっかりと農業の担い手を支える役割を果たしていけるよう努めて参りたいと存じます。

関係各位のご理解・ご支援をお願い申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。



# 年頭所感

伊吹英明

経済産業省製造産業局長



## 【はじめに】

年頭、本年1月1日に発生しました令和6年能登半島地震において亡くなられた方々に心からご冥福をお祈り申し上げるとともに、被災された全ての方々にお見舞いを申し上げます。

政府一丸となって、「人命第一」で、救命・救助活動に全力を尽くしてまいります。

経済産業省としても、総力を挙げ、関係省庁と連携し、

- ①電力、石油、ガスのエネルギーインフラの復旧、
- ②ストーブ等の暖房器具や灯油など経済産業省が所管する物資について、「プッシュ型支援」の実施、
- ③コンビニ等からの支援物資の供給強化、
- ④中小企業・小規模事業者の資金繰り支援の強化等に緊張感をもって取り組んでまいります。引き続き、産業界をはじめとする国民の皆様にも、御協力いただきますようよろしくお願い致します。

昨年は、これまで3年間続いた長いコロナ禍が収束に向かい、ポストコロナの社会・経済に活気が戻った一方で、ロシアによるウクライナ侵攻の長期化や中東紛争の激化など、我が国を取り巻く地政学リスクの厳しさが一段と増した年になりました。

こうした中、日本経済は、これまでのコストカット型のデフレ経済から、持続的な賃上げや活発な投資でけん引する成長型経済への転換局面を迎えています。昨年、国内投資見通しは名目100兆円と、過去最高を更新したほか、実に30年ぶりとなる高水準での賃上げが実現されました。

本年は、こうした成長軌道への変化を一過性のものにしないためにも、更なる投資の活発化と価格転嫁を促すことで、もう一段の賃上げを実現し、成長と所得向

上の好循環をさらに進める一年にしたいと思います。

その実現に当たって、政策の重点は、「GX(グリーントランスフォーメーション)」「DX(デジタルトランスフォーメーション)」「経済安全保障」の3軸による投資の促進だと考えています。本年も産業界の皆様と緊密に連携しつつ、この3つを政策軸として、我が国製造業の成長のために全力を尽くしてまいります。

## 【GX】

昨年末のCOP28の成果文書では、「化石燃料からの移行を進める」という文言が盛り込まれるなど、一層の取組強化の必要性が確認されました。脱炭素の世界的な潮流は想像を超えて速く、産業界にも変革を迫る圧力は年々高まっており、官も民も一歩前に出た取組が求められています。

世界各国では、米インフレ削減法やEUグリーンディール産業計画に代表されるように、したたかに自国に投資を誘導する投資促進策を加速させています。我が国は、エネルギー安定供給、産業競争力強化と排出削減の同時実現に向けて、昨年5月に「GX推進法」「GX脱炭素電源法」を成立させ、7月にはGX推進戦略を策定しました。その中では、「成長志向型カーボンプライシング構想」を掲げ、投資促進策と規制・制度の両輪で様々な施策を進めているところです。

特に、排出削減に効果が大きく、我が国産業の競争力強化に資する取組のうち、企業だけで取組むには負担が大きいものには、官も前に出て支援していくこととしています。

既に、脱炭素化に向けた研究開発・実証を支援している「グリーンイノベーション(GI)基金」では、水素還

元製鉄技術や、CO<sub>2</sub>を用いたプラスチック、コンクリートの製造技術等を開発するプロジェクトを進めています。

また、昨年末には、「分野別投資戦略」として鉄鋼、化学、紙パルプ、セメントといった”Hard-to-abate”産業、すなわち製造過程での排出削減が困難なセクターや、自動車、航空機等を含めた16分野でのGX実現に向けた方向性と投資促進策を策定し、今後、プロジェクトの具体化を進めることとしています。

加えて、GXに関する取組のうち生産段階でのコストが大きい戦略分野の投資については、初期投資支援の他に、生産・販売量に応じたインセンティブを受けられる減税措置を新設しました。

GXの実現には、こうした投資促進策だけでなく、規制・制度による取組も重要です。カーボンプライシングにより炭素排出に価格を付け、GX関連製品・事業の付加価値を向上させる取り組みを進めます。また、多くの企業にご参画頂いているGXリーグにおいて、排出量取引を実施していくとともに、グリーン市場創造に向けたルールメイキングを進めております。

また、GXだけでなくサーキュラーエコノミーの実現という観点から、金属、蓄電池材料、繊維などの分野で資源循環の取組も進めてまいります。

こうした施策に基づき、国内にGX市場を確立し、サプライチェーンをGX型に革新するなど、GX実現に向けた取組を政府としても後押ししてまいります。

自動車業界でもカーボンニュートラルの実現が大きな課題となっていますが、足下では「EVシフトの加速」と「中国の台頭」という2つの潮流が状況を大きく変えています。我が国は、EVに加えて水素、合成燃料など「多様な選択肢」によってカーボンニュートラルを実現する方針ですが、その中でも日系メーカーが「EVでも勝てる」競争力を獲得することが重要です。EVにとってコアな技術である蓄電池やモーターをはじめとしたe-Axleの開発や投資への支援、EV等の生産・販売量に応じた減税措置、国内のEV市場の立ち上げに向けた電動車の購入補助や充電インフラの整備など、総合的に取り組んでまいります。

## 【 経済安全保障 】

GXと並び世界的な課題となっているのが経済安全保障です。資源に制約のある我が国は、従来より米中をはじめとする諸外国と活発な貿易関係を築くことで経済発展を進めてきました。しかしながら、米中の厳しい対峙、コロナ危機、ロシアによるウクライナ侵略など国際情勢が厳しさを増す中で、サプライチェーン上のリスクが顕在化しており、改めて日本の国際的な立ち位置を確認しながら経済安全保障の取り組みを進めなければなりません。

政府としては、特定の国や地域に過度に依存しない、自立性の高い経済構造を実現すると同時に、研究開発強化等による技術・産業競争力の向上や技術流出の防止により優位性を確保するため、産業界との対話・協力の下、あらゆる施策を総動員して取組を進めてまいります。

具体的には、「経済安全保障推進法」に基づき指定した11の「特定重要物資」のうち、製造業の関連では、永久磁石や工作機械・産業用ロボット、航空機の部品、半導体素材などの我が国の生産基盤を支える物資について、安定供給の確保に資する民間企業の設備投資や、これらに不可欠な重要鉱物の備蓄、研究開発の取組を後押ししてまいります。

また、2022年から始まった経済安全保障重要技術育成プログラムを活用し、宇宙・航空、海洋、サイバー等特定の先端的な重要技術について官民による研究開発を推進していきます。

## 【 DX 】

GXや経済安全保障の課題に対応するに当たり、また、企業の競争力の基盤という意味でも、デジタル化への対応は不可欠です。デジタルによる既存のビジネスモデルの変革や、生成AIの登場による付加価値の源泉の変化など、DXによる産業構造の変化を捉え、先を見据えて手を打っていくことが求められています。

政府としては、デジタル社会の基盤を支え、GXや経済安保の観点からも重要な物資である半導体・蓄電池の投資に対して、大胆な政策措置を講じてきました。こ



うした支援に加え、国民生活や経済社会を支えるデジタル時代の社会インフラ、すなわち、「デジタルライフライン」の整備についても取り組んでいます。移動・物流課題の解決手法とすべく、「レベル4」の自動運転技術を活用したサービスの実現に向け、自動運転タクシー・トラックの社会実装を支援していきます。

さらに、我が国製造業の競争力強化に向けて、DX投資を後押しします。DX投資促進税制等の既存の政策に加えて、経営課題に立脚した、自社にとっての最適なものづくりを考えることが必要であるという認識の下、製造事業者のDXの目指すべき姿をお示しできるよう、スマートマニュファクチャリングのガイドラインの策定を進めています。足元の人手不足に悩む中小企業等には、ロボット導入などの省力化支援も進めてまいります。

また、デジタル技術やデータを用いて新たな産業構造における競争力を獲得するため、航空機産業におけるモデルベースシステムズエンジニアリング等の技術を活用した新たな開発手法や、3Dプリンターによる「ものづくり」の変革、自動車産業におけるサプライチェーンデータの連携にも取り組んでいきます。

事業者の皆様には、こうした施策を積極的に御活用いただくとともに、経営や組織のあり方を根底から変えていくような強い意思を持ってデジタル化に取り組み、企業の競争力強化に繋げて頂くことを期待しています。

## 【宇宙産業】

人類初の月面着陸から半世紀余り、かつては国の威信をかけ各国が開発競争を繰り広げた宇宙分野に、2000年代以降、民間企業が相次いで参入しました。今や安全保障上も極めて重要な宇宙分野において、我が国が一定のプレゼンスを確保できるかの分水嶺にいとを考えています。

政府としては、これまで研究開発のみを行ってきたJAXAにファンディング機能を持たせるという歴史的な転換を図るべく、昨年臨時国会において改正JAXA法を成立させるとともに、1兆円規模の「宇宙戦略基

金」の設置を決定しました。経済産業省としても、本年、宇宙産業室を「宇宙産業課」として強化し、小型衛星コンステレーションの構築やそれを用いたデータビジネスといった、宇宙分野でのビジネスを強力に後押しする体制を整えるとともに、JAXAとの連携を抜本的に強化してまいります。

我が国には、小型SAR衛星や光通信衛星、宇宙輸送技術などの分野で、世界でも有数の優れた技術を有する企業があります。こうした技術をビジネスにつなげ、我が国宇宙産業の発展と、宇宙活動の自立性の強化に貢献できるよう取り組んでまいります。

## 【おわりに】

産業界が今直面する課題は、官も民も一歩前に出て取り組まないと解決できないため、国内外で活躍されている産業界の皆様との日々の対話を通じ、将来につながる日本の経済基盤をともに形作っていきたくと考えております。

GX、DX、経済安全保障といった新しい経済の軸に合わせ、成長につながる投資の形や事業分野の中身も変わっていきます。このように、外部環境が大きく変化する時代において、次の世代に世界で勝負できる成長産業を残し、また創っていきけるかは、現役世代の我々に懸かっています。こうした覚悟をもって、本年も全力で取り組んでまいります。

最後に、皆様の益々の御発展と、本年が素晴らしい年となることを祈念して、年頭の御挨拶とさせていただきます。



# 年頭所感

安田 篤

経済産業省製造産業局産業機械課長



冒頭、本年1月1日に発生しました令和6年能登半島地震において亡くなられた方々に心からご冥福をお祈り申し上げるとともに、被災された全ての方々にお見舞いを申し上げます。

政府一丸となって、「人命第一」で、救命・救助活動に全力を尽くしてまいります。経済産業省としても、総力を挙げ、関係省庁と連携し、

- ①電力、石油、ガスのエネルギーインフラの復旧、
- ②ストーブ等の暖房器具や灯油など経済産業省が所管する物資について、「プッシュ型支援」の実施、
- ③コンビニ等からの支援物資の供給強化、
- ④中小企業・小規模事業者の資金繰り支援の強化等に緊張感をもって取り組んでまいります。引き続き、産業界をはじめとする国民の皆様にも、御協力いただきますようお願い致します。

昨年は、コロナ禍が収束に向かい活気が戻った一方で、国際経済秩序が変化した年でした。こうした新たな経済構造の転換の時期において、産業界の皆様には、高水準の賃上げ実現や国内投資の促進等にご尽力いただきましたこと改めて感謝申し上げます。経済界の皆様のご尽力もあり、日本史上最高を更新する国内投資見通し、実に30年ぶりとなる高水準の賃上げの実現など、成長と改革の方向に向かう「潮目の変化」が生じています。経済産業省では、物価高に負けない賃上げを実現できるよう、引き続き賃上げのカギとなる取引適正化・価格転嫁対策の推進や事業再構築への支援、省力化や生産性向上の取組、中堅企業の大規模投資支援等を通じた、国内投資の加速と成長力強化に全力を尽くしてまいります。

産業界では物価高やエネルギー高の影響で様々な

課題に直面していると存じます。経済産業省では、足元のエネルギー高への対策として、燃料油価格、電気・ガス料金にかかる激変緩和措置を本年春まで継続するとともに、省エネ型の経済・社会構造への転換を実現すべく、企業・家庭向けの支援を実施します。そして、昨年引き続きGXやDXも進めていきます。GXについては、昨年末に、エネルギー分野、くらし分野、産業分野それぞれにおいて分野別投資戦略を取りまとめました。これら各分野の戦略に基づき、20兆円規模のGX経済移行債を活用した投資促進策を実行していきます。DXについては、DXを実現した設備導入だけでなく、DXに資する人材の育成の支援も行っています。

また、産業界の皆様には、本年4月から適用されるトラックドライバーの時間外労働上限規制等により、輸送力の不足が懸念される「物流の2024年問題」の解決に向け、対策を講じていただいております。深刻な人手不足の中、産業界における物流の適正化や生産性向上のため、荷主企業の物流施設の自動化、機械化などに向けた支援策等を進めてまいります。

1年後に迫った大阪・関西万博では、ポストコロナの新たな世界、次世代技術・社会システムが形作る未来社会の風景観を示し、我が国のイノベーションの可能性を世界に発信していきます。経済産業省として、世界中から来訪する様々な人達が刺激を与え合えるような万博にできるよう、準備に邁進してまいります。是非、産業界の皆様にも「いのち輝く未来社会のデザイン」というテーマに沿って一緒に盛り上げていただければ幸いです。

我が国を取り巻く外的環境は日に日に厳しさを増し



ています。今後の経済成長の鍵となる戦略分野については国内投資、研究開発、人材育成等への支援にさらに力を入れ、安定的な供給に向けた取組を進めていきます。そして、経済安全保障に関する産業・技術基盤に影響が及ぶ脅威やリスクをいち早く捉えるために「経済安全保障に関する産業技術基盤強化アクションプラン」にまとめておりますように、産業界の皆様との戦略的対話を行って参りたいと存じます。また、イノベーションを支えるスタートアップのグローバル展開や人材育成等に対し幅広い支援を行うとともに、G7広島サミットで合意された、グローバルサウスとの連携強化の推進も進めてまいります。

昨年12月には、「アジア・ゼロエミッション共同体(AZEC)」構想の下での初のAZEC首脳会合を開催い

たしました。経済産業省からMOU等の協力について報告を行ったところですが、引き続き官民連携してエネルギートランジションを進めていきたいと思っておりますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

こうした経済成長のチャンスを逃さぬよう、流動的な経済構造の変化を捉え、自由で公平な通商・貿易環境の構築、新たなイノベーションモデルを支える基盤の整備、加えて、日本経済の土台となる投資への支援等に重点を置いて政策を推進することで、日本経済の更なる成長に貢献してまいります。

結びになりますが、本年が、皆様方にとって更なる飛躍の1年となりますよう祈念いたしまして、新年の挨拶とさせていただきます。



## 年頭所感

吉田 剛

農林水産省農産局技術普及課長



新春を迎え、謹んで新年の御挨拶を申し上げます。

令和6年能登半島地震で、お亡くなりになられた方々に改めてお悔やみを申し上げますとともに、被害にあわれました全ての方々に心よりお見舞いを申し上げます。農林水産省といたしましても、被害状況の把握と早期の復旧・復興に関係省庁や地方自治体と連携して、全力で対応してまいります。

一般社団法人日本農業機械工業会並びに会員各位におかれましては、日頃から農林水産政策に御理解を賜りますとともに、高品質・高性能な農業機械の開発・生産を通じて、我が国の農業の発展に一方ならぬ御尽力を賜り、改めて厚く御礼申し上げます。

さて、近年の我が国の食をめぐる情勢は、これまでと

は大きく変化しています。

昨今の食料や生産資材価格の高騰は言うまでもなく、気候変動による食料生産の不安定化、世界的な人口増加に伴う食料争奪の激化などにより、いつでも安価に食料を輸入できるわけではないことが明白となっています。

一方、国内の食料供給基盤に目を向ければ、国内の人口全体が減少局面に転じ、生産者の減少・高齢化も進んでおり、将来にわたって持続可能で強固な食料供給基盤を構築することが急務となっています。

このような情勢の変化を踏まえて、食料・農業・農村基本法が時代にふさわしいものになるよう、食料安全保障の抜本的な強化、環境と調和のとれた産業への

転換、人口減少下における農業生産の維持・発展等の観点から見直しを行うこととしています。

現在、改正案を本年の通常国会に提出するべく準備を進めているところであり、基本法改正と併せて、スマート農業を振興する新たな法的枠組みの創設を実現するための関連法案の提出を目指しているところです。

また、新たな施策の展開に向け、昨年末に成立した令和5年度補正予算や閣議決定された令和6年度予算案においても、

- ①麦・大豆、野菜、飼料作物など食料の安定供給の確保
  - ②みどりの食料システム戦略による環境負荷低減に向けた取組強化
  - ③農業支援サービス事業者の新規参入やスマート農機の導入支援
- 等を措置し、農業現場の課題に対応してまいりたいと考えています。

他方、多様な農業人材の育成・確保が課題となる中で、農業における就業人口当たりの死者数は上昇傾向が続いています。農業を魅力ある産業としていくた

めにも、農業機械を含めた農作業安全の更なる向上は大きな課題です。

昨年末に開催した第8回農作業安全検討会では、自脱型コンバインや田植機におけるインターロック機構の基準化やスピードスプレーヤーにおける挟まれ事故の防止機能の向上等の方向性が示され、安全性検査を通じた我が国の農業機械の安全性能が新たな段階に移行するものと考えています。

また、農機販売店の皆様にも協力いただき、約4,400名の「農作業安全に関する指導者」が育成され、農業者への全国的な研修体制が整いつつあります。引き続き、農業機械の安全性の向上と農業者の安全意識の向上を対策の両輪として、農作業事故の防止に努めてまいりたいと考えています。

我が国における食料安全保障の重要性が増す中、現場を支える農業機械業界の皆様からのお力添えが益々必要となっています。本年においても、引き続き、これら行政施策への御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様の益々の御健勝を祈念して新年の挨拶とさせていただきます。



## 年頭所感

安原 学

国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構  
農業機械研究部門 所長



まずは、本年1月1日に発生いたしました令和6年能登半島地震において犠牲となられた方々に心からお悔やみ申し上げるとともに、被災された全ての方々にお見舞いを申し上げます。

さて、日頃より農研機構農業機械研究部門(略称:農機研)における研究開発業務の推進に対して多大なご理解、ご協力をいただいておりますこと、厚く御礼申

上げます。

「Society5.0」は、狩猟社会、農耕社会、工業社会、情報社会に続き、フィジカル(現実)空間とサイバー(仮想)空間を高度に融合させることで実現する、経済発展と社会的課題の解決を両立した人間中心の未来社会像です。

我々農機研は、農業・食品分野における「Society

5.0」の実現により、農業従事者の減少及び高齢化への対応、食料自給率向上、農業の収益性の向上、生産性向上と環境保全の両立、といった課題に対して、農業機械・施設や農作業のスマート化により抜本的な作業の効率化や高精度化を実現することで、解決策を見いだすべく努力を重ねています。

また、農林水産省が策定した「みどりの食料システム戦略」への対応については、水稻の有機栽培体系の構築のため、農機研では両正条田植機による除草剤に頼らない機械除草栽培体系の構築に関する研究を行っています。基盤の目状に苗を移植する両正条植えにより、ほ場の縦横両方向で機械除草が可能となります。昨年11月15日には「縦横2方向の機械除草を可能とする植付位置制御機構を開発」としてプレスリリースをしたところです。HST(無段変速機)を利用した植付位置制御機構を市販機に搭載したプロトタイプ機を製作したところであり、今後は実証試験でデータを蓄積するとともに、メーカーへの技術移転を進めて早期実用化を目指してまいります。農業機械の電動化については、小型電動農作業ロボットの開発やバッテリーの効率的な利用に取り組んでいます。

さらに、農業機械がメーカーを問わずデータ連携を可能とすることで、農業者がデータ駆動型農業を実践しやすくなる環境作りも進めています。農研機構が代表機関として、農機・機器メーカー、ICTベンダー、業界団体、研究機関等からなる、農機 API 共通化コンソーシアムを令和3年に設立し、ほ場農業機械、穀物乾燥調製施設及び施設園芸機器の3分野について WG

を設け、それぞれ専門的な立場から、「農業機械等から得られるデータを連携・共有するための協調データ項目の特定・拡大とデータ形式の標準化」「データ連携の検証」などを実施しています。

一方、我が国の農作業死亡事故件数は年間242件(令和3年)と、10年前(平成23年:366件)に比べ3分の2に減少したものの、依然として多い状況が続いています。農機研では農林水産省等と協力して、農作業事故調査や安全啓発システムの開発を行うとともに、農業機械の安全性検査や農作業安全情報センターによる農作業の安全啓発を通じて、農作業安全対策に努めています。また、安全性検査のロボット・自動化農機検査の対象機種に「乾燥機(穀物用循環型)の遠隔監視装置」を昨年9月1日から新たに追加いたしました。今後も先進的な機械が現場で安心して導入・活用していただけるように努めてまいります。引き続き農機研は農作業事故減少に貢献できるよう様々な取組を行います。

スマート生産システムのための農業機械の開発や農業のDX化、農作業安全の推進はもとより、OECDトラクタテストコードやISOなどの国際標準化の推進に当たっても、日本農業機械工業会及び会員の皆様のご理解とご協力が不可欠であると考えております。今後ともご支援・ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

最後に、本年が貴会及び貴会員の皆様にとって、実り多き一年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。





## Q:指がしびれるが、動かすと治まる。 原因と治療法を知りたい

〈相談者／31歳 女性〉

出産後、人さし指と中指がしびれるようになりましたが、指を曲げたり伸ばしたり、手を振ったりしていると治まるのでそのままにしています。

進行する病気でしょうか。治療法があれば教えてください。

### A:手根管症候群が疑われる。

#### ステロイド注射などで治療する

相談者の症状から、手根管症候群であると思われます。手根管症候群の症状は、親指（母指）から人さし指、中指、薬指までのどこかの指がしびれてくるもので（薬指は親指に近い側がしびれる）、朝方に症状が悪化することが多く、初期には手を振るとしびれが改善するという特徴があります。女性に多く、閉経期・妊娠・産後に比較的多くみられます。病気が進行すると親指のつけ根の筋肉（母指球筋）がやせてきて、字を書いたり、箸を使ったりするのが困難となりますが、そのような症状は更年期以降の患者さんに多くみられます。閉経以後・妊娠・産後の女性に共通する背景として、女性ホルモン（とくに卵胞ホルモン）のバランスが変わることが関連していると考えられます。

手のしびれの直接の原因は、手首にある手根管といわれる場所で正中神経が屈筋腱と手首の靭帯に挟まれることによります。靭帯の肥厚が原因のこともありますが、大半は屈筋腱の腫れによっ

て神経が圧迫されることが原因です。この屈筋腱の腫れが女性ホルモンのバランスと大きく関係していると考えられます。治療としては、最初は屈筋腱の腫れを取る目的で、手根管の中にステロイドの注射を行います。ステロイド注射の効果がなかったり、くり返し再発したりする場合は手術によって手根管部の靭帯を切って神経を開放する手術を行います。

相談者は産後のようなので、前述したようなことが背景でしょう。その場合、授乳が終わると改善することが多いですが、しびれや痛みが進行性の場合や、授乳が終わっても症状が改善しない場合は、手の外科の専門医による診察を受けられることをおすすめします。日本手外科学会のホームページから、お住まいの地域の手外科専門医を探すことができますので参考にしてください。

回答者：四谷メディカルキューブ（東京都）

手の外科・マイクロサージャリーセンター長  
平瀬 雄一 氏

○日本手外科学会「手外科専門医名簿」

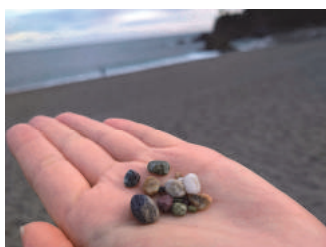
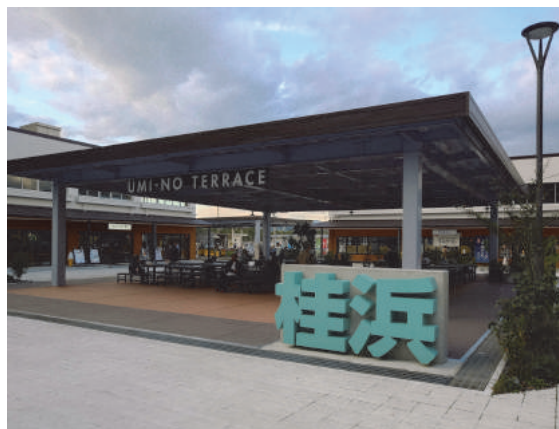
<http://www.jssh.or.jp/ippan/senmon/senmonimeibo.html>





11月9日（木）、日農工の地方大会が「高知市」にて開催されました。  
豊かな自然に囲まれた高知県の観光スポットをご紹介します！

高知観光の代名詞といえば、月の名所『桂浜』。  
桂浜公園では約40年ぶりの大規模リニューアルが行われ、2023年3月に商業施設エリア「海のテラス」がグランドオープン。カフェやご当地グルメ、魅力的なお土産がたくさん。雄大な太平洋を望む桂浜とあわせて、おしゃれで開放的な空間が広がっていました。  
見て・食べて・買って、気分もリフレッシュ！



← 五色石：仁淀川から海まで運ばれた石が桂浜に打ち上げられたもの。  
緑・赤・白・黒・灰の5色の石を見ることができる。



高知



桂浜公園

〒781-0262

高知県高知市浦戸

<https://katsurahama-park.com/>



2025年春に NHK 朝ドラの題材となる予定の「アンパンマン」の作者、漫画家「やなせたかし」氏。

生まれ故郷である香美市に『やなせたかし記念館』があります。館内を回るスタンプラリー、やなせ氏が描いた絵画や壁画など、子どもから大人まで楽しむことができます。

「アンパンマン」には数多くのキャラクターが登場しますが、やなせ氏は全国各地のご当地キャラまでも手がけており、高知県だけでも50以上。地域や名産の特徴を見事に捉えています。

実際に高知では、あちらこちらでやなせ氏が生み出したキャラクターを見かけました。



↑ 高知市「はりまや橋」の前でもアンパンマン像を発見！

↑ 記念館の隣にはバイキンマンが作ったロボット「ジャイアントだんだん」像が。目が怪しく光ります。

## 香美市立やなせたかし記念館

〒781-4212 高知県香美市香北町美良布 1224-2

営業時間：9：30～17：00 休館日：火曜日

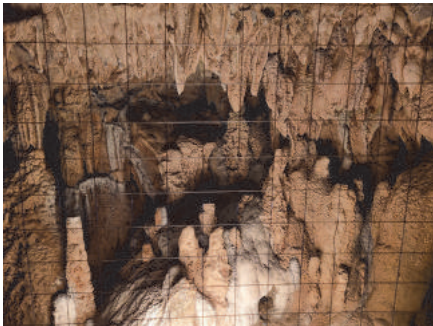
入館料(共通券)：一般800円、中高生500円、3歳以上300円

<https://anpanman-museum.net/>

香美







↑ 天井からたれ下がるつらら石  
石灰岩が水に溶け出して形成される。  
1cm成長するのに100年もかかる。

やなせたかし記念館より車で30分ほど走った所に位置する『龍河洞』。「日本三大鍾乳洞」としても知られていて、自然の複雑な条件が重なってできた鍾乳洞や鍾乳石を間近で見ることができます。

鍾乳洞の解説のほか、ライトアップやプロジェクトマッピングなど、展示に工夫がされていて見どころ満載でした。ただ、狭い道や傾斜が急な階段を進んでいくので頭上と足元に要注意。冒険心と体力に自信のある方におすすめです。

通常の観光コースでも十分に楽しめましたが、要予約制の冒険コースでは、つなぎと長靴（レンタル可）に着替え、洞内のさらに奥深くを見学することができます。



### 龍河洞

〒782-0005

高知県香美市土佐山田町逆川1424

営業時間：3月～11月【8:30～17:00】

12月～2月【8:30～16:30】

観光コース料金：大人1,200円、中学生700円

小学生550円

<https://ryugadou.or.jp/>

香美

## 世界で唯一！『神の壺』

龍河洞には弥生人の生活の痕跡が残っています。

中でも興味深いのが、弥生人が残したとされる壺が、鍾乳洞と一体化している『神の壺』。世界でここだけでしか見ることができない、学術的にも貴重なものだそう。



また、昭和12年(87年前)から実際に鍾乳石の下に壺を置き「神の壺」を再現する面白い実験も行われています。

龍河洞を訪れた令和5年11月時点では壺全体が覆われ、地面との接触部分も一体化してきている様子でした。



龍河洞のキャラクター  
「リユーくん」©やなせたかし



高知の名物パン“ぼうしパン”  
「ぼうしパンくん」©やなせたかし







本流に大規模なダムが建設されていないことから、「日本最後の清流」とも言われる四万十川。四万十川には支流を含めて47本の沈下橋があります。沈下橋はその名の通り川の増水によって水面に沈む橋です。欄干（柵）がないのが大きな特徴で、地元の方は生活道として車でも渡るそうです。想像しただけで肝が冷えます。



四万十川ではいくつかの屋形船が運行されていて、船頭さんの解説を聞きながら沈下橋の下をくぐることができます。訪れた日は曇りがちな天気でしたが、水深2～3mの川底が見え、十分に川の透明度を楽しむことができました。光の加減によってはもっと深い水深の場所でも川底が見えるそうです。また、産卵に向かう鮎が水面からパシャッと飛び跳ねる様子も見ることができました。



### 屋形船 四万十の碧

《三里乗船場》

〒787-1221 高知県四万十市三里 1446

営業：年中無休 8：30～16：30

定期便ふらっと堪能コース（約60分）

大人 2,000 円、こども 1,000 円

<https://www.shimanto-ao.com/>

四万十

## 高知名物『田舎ずし』

右の写真は地方大会終了後の懇親会で出された田舎ずし。魚ではなく、筍やミョウガなどの“山の幸”を使った珍しいお寿司です。登場したピーマンには驚きましたが、青臭さは全くなく、さっぱりとした優しい味でとても美味しかったです。



野菜のシャキシャキ  
食感が面白い！

元々は魚が手に入りづらい山間部で食べられていたものですが、1986年「全国ふるさとおにぎり百選」に入選したことがきっかけで都市部へと広まりました。高知で曜日ごとに開催されている朝市、スーパーや道の駅でも購入でき、日常的な食べ物として親しまれています。



また、  
家族と  
会える  
ように



## 農業機械の転落・転倒対策



デザイン/令和5年農作業安全ポスターデザインコンテスト 農林水産大臣賞 TANGJITRUAMBOON TANANAN

令和5年全国農作業安全確認運動  
農林水産省





# ISO/TC23/SC6 会合出張報告

## 1. はじめに

日農工は、JICS(日本工業標準調査会)の承認の下、当会が国内審議団体となっているISO/TC23(専門委員会:農業用トラクタ及び機械)のすべてのSC(分科会)に参加登録を行っています。

昨年9月にスウェーデン王国ストックホルムで開催されたSC6(収穫物保護設備)のプレナリー(全体会議)及びWG(作業部会)25の第22回会合に出席しましたので、その概要を報告します。

WG25は、無人航空機用噴霧システム(UASS)に係る国際規格開発を検討する作業部会で、2019年6月にスペイン(バルセロナ)で、同年10月に中国(深圳)で開催された後、新型コロナウイルスの影響でリモート方式により開催されていましたが、2022年9月に3年ぶりにアメリカ合衆国で開催されました。今回の会合は昨年度に引き続きハイブリッド方式で開催され、12カ国から32人の専門家が参加しました。

SC6のプレナリーも、やはりコロナの影響で開催が見合わされていましたが、昨年度に引き続きハイブリッドでの開催となり、これと併せてWG25の会合が開かれた次第です。

WG25では無人航空機による農薬散布における分布状況測定試験方法に関する規格案(第2次CD(委員会原案))についての検討が行われ、日農工からも専門家を派遣して規格案の検討に参画しました。

## 2. 審議の経過と日本の対応

### (1) 審議の経過

WG25において企画検討が開始された当初は、試験方法を含む1本の規格を策定するという方針でしたが、深圳での第4回会合で、パート1(環境要件)、パート2(水平方向への落下量評価に関する試験方法)の2本の規格に分割することになりました。さらに2021年にはパート3(無人航空機を用いた農薬散布におけるドリフトの屋外測定方法)、パート4(無人航空機を用いた農薬散布における農作物群落内への液滴付着量の測定方法)の2つの規格案が中国から提唱されましたが、2022年の第17回会合及びSC6プレナリーにおいて、パート3、パート4のいずれも規格策定を見送ることが決定されました。

その後、パート1については順調に検討が進み、本年9月にISO規格として公開(publish)されました。パート2については、引き続き検討が続いており、WG25の第22回会合では、第2次CDに対する各国からのコメントについてのWG25の対応方針に関する審議が行われました。

### (2) 日本の対応

日農工は、国内の関係メーカー、学識経験者等をメンバーとする国内審議委員会WGを設置し、ISO23117の規格案について検討を行うとともに、WG25会合に国内審議委員会WGのメンバーが専門家として出席し、規格案について意見を述べてきました。

WG25の会合においては、日本と状況のよく似た韓国からWG25の議長として派遣されているDr. Rheeと連携して、両国におけるドローンの試験方法をISO規格に反映させるべく対応してきました。



### 3. 第 22 回 WG25 及び SC6 における 審議内容

第 22 回 WG25 会合には、日本からは国内審議委員会 WG で取りまとめたコメントを提出するとともに、3 名の専門家を現地に派遣して各国から提出されたコメントのレビューに参加し、意見を述べました。会議の概要は以下のとおりです。

[日 時] 令和 5 年 9 月 11 日(月)~9 月 15 日(金)

[会 場] スウェーデン王国ストックホルム市(スウェーデン規格協会会議室)

[出席者] 農研機構本部: 元林浩太、農研機構農業環境研究部門: 小原裕三、日農工: 川口尚(現地出席)

(株丸山製作所: 湯浅一康、日農工: 松山徹、坂根弘史(リモート出席))

(各国からの出席) ブラジル、フランス、アメリカ、インド、イギリス、ドイツ、韓国、オランダ、中国、スペイン、イタリア、日本の 12 カ国から 32 名が出席(現地参加 23 名、リモートでの出席 9 名)

[WG25] 9 月 13 日(水) ~ 9 月 14 日(木)

《9 月 13 日》

- ① 開会
- ② 議題の採択
- ③ ISO 第 2 次 CD23117-2 に対するコメントのレビュー

《9 月 14 日》

- ① ISO 第 2 次 CD23117-2 に対するコメントのレビュー(前日からの続き)
- ② その他の検討事項

#### ・次のプロジェクト

議長から (1) UASS の運用要件および飛行管理、(2) 果樹園における UASS の適正使用の 2 つのプロジェクトの提案がありましたが、WG25 としては、パート 2 の検討が終了した後に改めて議論することになりました。

#### ・次の議長

WG25 議長の任期は 2023 年 12 月 31 日までとされているため、Dr. Rhee は次期も引き続き議長としてパート 2 の検討を終了させるか、今期限りで議長を辞任するか悩んでおり、次期を担当するボランティアの立候補を期待していると発言しました。このことについては、Dr. Rhee の意向を尊重し、SC6 プレナリーに諮ることとなりましたが、プレナリーでも結論が出なかったため、引き続き検討することになりました。

- ③ 次回会合の日程 : 2023 年 11 月 28 日(火)
- ④ 閉会

[SC6 プレナリー] 9 月 14 日(木)~9 月 15 日(金)

- ① 開会
- ② 事務局からの報告
- ③ 機械指令の改正等に関する CEN/TC144 との連携について
- ④ 各 WG からの報告
  - ・WG5(ポータブル噴霧器)
  - ・WG6(噴霧器の清掃)
  - ・WG20(空中散布機)
  - ・WG21(スプレードリフトの実験室測定方法ー風洞)
  - ・WG22(ISO 4254 - 6 の改定)
  - ・WG25(無人航空機による噴霧システム)
  - ・WG27(スプレードリフトのパラメーター)
  - ・WG28(環境要求)
  - ・WG29(新たな噴霧器)
- ⑤ リエゾン組織と ISO/TC または SC 委員会の報告
- ⑥ システムティック・レビュー
- ⑦ 今後の作業項目
- ⑧ 次回のプレナリー
  - ・2024 年 9 月 16 日~9 月 20 日(オランダ王国デルフトで開催)



TC23/SC6/WG25 の会議風景



日本からの出席者

残念ながら、今回の SC6 プレナリーでは現地視察はありませんでしたが、プレナリー初日(9月14日)の夕方には、今回の会議の事務局を務めてくれたスウェーデン規格協会(SIS)が幹事となり、参加者によるレセプション・ディナーを開催してくれました。希望者のみの参加でしたが、他国からの参加者と再開を喜び合い、コミュニケーションを深めることができたことは、今後の検討を円滑に進める上でとても有益だったと感じました。



SC6 プレナリー出席者の集合写真

#### 4. 雑感

(1) ロシアによるウクライナ侵攻の影響のため、欧州行きの飛行機はロシア上空を飛行することができず、往きは北回り(北極上空経由)、帰りは南回りの長距離飛行になり、非常に疲れました(往きは経由地のフランクフルトまで 15 時間半かかりました。)。新型コロナウイルス感染症が下火になってきたこともあり、機内では日本人以外の乗客はほとんどがマスクをしていませんでした(日本人でもマスクをしていない人が多かったように感じました。)。また、経由地のフランクフルト、目的地のストックホルムのどちらも街で見かける人たちはノー・マスクで、ISO の会議に出席している専門家でもマスクをしている人は皆無でした。しかし、ドイツの専門家の一人が会期の途中で体調不良により急遽帰国し、その後コロナに感染していたことが判明するなど、まだまだ安心できないということを実感しました。

(2) 会議最終日の翌日はスウェーデンのグスタフ国王在位 50 周年記念式典が開催され、国王一家のパレードやミュージシャンによるコンサートなどが開催されましたが、日本大使館から、テロの恐れがあるため人が多数集まる場所には近づかないよう勧告が出されていたため、ホテルのテレビでの見物となりました。なかなか経験できない貴重なイベントだと思いましたが、君子危うきに近寄らずという諺もあるので、我慢我慢と自分に言い聞かせた次第です(実際にはテロは起きませんでした。)

(3) ノーベル医学・生理学賞はスウェーデンのカロリンスカ研究所(カロリンスカ医科大学)で選考が行われていますが、今回のプレナリーが開催された SIS はカロリンスカ研究所のすぐ近くに位置しています。また、ストックホルムの旧市街にはノーベル賞博物館があり、「ノーベル賞の街」という印

象を強く受けました。ノーベル賞博物館の売店ではノーベル賞のメダルの形をしたチョコレートが売られており、ストックホルムのお土産の定番になっているそうです。(歴代のノーベル賞受賞者もお土産として買っていきそうで、iPS 細胞の研究でノーベル賞を受賞した山中教授は 1,000 枚も買って帰ったということです。)



ノーベル賞博物館

(文責 : 川口 尚)



< BREAKTIME >

# Rooibos Tea

ルイボスティー



さて、皆さんは「ルイボスティー」を飲んだことはありますか？某、有名ラーメンチェーン店ではすっきりとした味わいでラーメンにピッタリだと、麦茶ではなくルイボスティーがお店で提供されているとか。少し独特な風味がありますが、何のお茶か気にせずに飲んでいる方もいるかもしれませんね。

茶葉で使われている「ルイボス」はマメ科の針葉植物。アフリカ大陸の最南端、南アフリカ共和国の一部の地域でしか栽培が成功していないとても珍しい植物です。「ルイボス」は現地の言葉で「赤い藪」を意味していて、ルイボスティーは松の葉のような針状の葉の部分の加工して作られています。古くから「不老長寿のお茶」「奇跡のお茶」として健康のために日常的に飲まれ続けてきました。

緑茶や紅茶、烏龍茶は全てツバキ科の茶の樹から作られていますが、ルイボスはマメ科のため「カフェイン」を含まず「タンニン」が少ないのが特徴です。渋みのない紅茶のような味で後味がすっきりしているため、他のハーブとブレンドしても味が邪魔になりません。また、果物のジャムや生姜、牛乳とも相性抜群です。焼酎割りなどアルコールにも合うのだとか。バラエティに富むお茶といえますね。

ルイボスティーは現地の人が「不老長寿のお茶」と呼ぶことから分かるように、ポリフェノールをはじめ、鉄分、亜鉛などのミネラルが豊富に含まれ健康にとっても効果的なお茶です。強い抗酸化作用と血行促進や、女性ホルモンの分泌促進効果等により、美肌、白髪予防、冷え性・むくみ解消、整腸作用、糖尿病・痛風・アレルギー症状の緩和などにも期待できると

言われています。

また、「カフェイン」を含まないため、就寝前はもちろん、妊娠中や授乳中の方でも安心して飲むことができます。鉄分や亜鉛など女性にうれしい不足しがちな成分も含まれているので最近では妊婦さんへのプレゼントの定番にもなっています。

しかし、大量に飲み過ぎると下痢などの症状が出る恐れがあるので、1日に 500ml 程度までを目安にしましょう。

日本ではストレートで飲まれることが多いですが、南アフリカでは牛や山羊の乳と砂糖を入れて、ミルクティーにして飲むのが一般的だそうです。機会があればミルクティーもぜひ試してみてください。

## 南アフリカの一般的な飲み方！

### ～ ルイボスミルクティー ～

- ①鍋に水と茶葉を入れて火にかけ沸騰させる  
紅茶と違い渋みが出ないので水から茶葉を入れてOK！濃い目に煮出すのがポイント。  
茶葉は2～3gで1、2杯分です。
- ②牛乳を加えて中火にする  
基本は 水：牛乳＝1：1
- ③再度沸騰したらすぐに火を止める  
加熱しすぎないように注意しましょう。
- ④茶こしでこしながらカップに注ぐ
- ⑤お好みで砂糖や蜂蜜を加える

もちろん、濃いめのルイボスティーに牛乳を足すだけでも美味しく飲むことができます。  
甘くするのがおすすめ！



# 農業機械に関連する農林水産省の令和6年度予算概算要求について

## 農業支援サービス事業育成対策

【令和6年度予算概算要求額 110 (30) 百万円】

### <対策のポイント>

農業現場の課題に対応しつつ、多様な経営体に対し専門的に経営・技術等をサポートする**農業支援サービス事業者の新規参入**、既存事業者による**新たなサービス事業の育成・普及を加速化**するため、**新規事業の立上げ当初のビジネス確立**のための取組を支援します。

### <事業目標>

農業支援サービスの利用を希望する農業の担い手の8割以上が実際に利用 [令和7年まで]

### <事業の内容>

#### 農業支援サービスの育成支援

新規事業立上げ当初の**ニーズ確保**や**人材育成**に要する以下の取組について支援します。

- ① ビジネス確立のための**ニーズ調査**や**サービス提供の試行・改良**
- ② デモ実演に必要な**機械・システムの改修**や**データ収集**
- ③ サービスの提供に必要な**専門人材の育成** (研修費等) 等

※広域で一斉展開する事業者の場合は、上限額を引き上げて支援します (広域型：2,000万円、地域型：1,500万円)。

なお、農業現場が直面する各課題の解決に資する取組を優先的に採択します。

- A** スマート技術やデータを活用した**生産・経営の効率化・高度化**に資する取組
- I** 産地の**労働集約型作物のニーズ**に対応した取組
- U** 輸出の**拡大**や**生産資材の低減**に向けた**超低コスト生産**の取組
- E** **環境負荷低減**と**生産性向上**の両立に資する取組

### (関連事業)

強い農業づくり総合支援交付金のうち**農業支援サービス事業支援タイプ** 17,622 (12,052) 百万円の内数  
 農業支援サービス事業の新規事業立上げに必要な、農業散布用のドローン等**農業用機械のリース導入・取得**を支援します。

### <事業の流れ>



### <事業イメージ>

**課題** 農業現場の厳しい人手不足 (特にピーク時の臨時雇用)

**課題** 収量・品質の低下  
スマート農機導入コスト

農業支援サービス事業者の育成支援

**【農業支援サービス事業者の育成・普及上の課題例】**

- 繁閑があるため、同一産地・品目では**通年でのニーズ確保**が困難。また、複数産地・品目に対応する場合は**高度な人材の育成**が必要
- 一つの作業失敗が収量・品質に大きな影響を及ぼすため、**農家との信頼関係の構築**に時間や労力を要する
- 園芸作物などの**労働集約型作物**に求められる**定植**や**摘果作業**に対しサービスを提供できる事業者が限られている

本対策で、**ニーズ調査**や**人材育成**、**デモ実演**に必要な**機械・システムの改修**などを支援

【お問い合わせ先】 農産局技術普及課 (03-6744-2218)

## みどりの食料システム戦略推進交付金のうち

## グリーンな栽培体系への転換サポート

【令和6年度予算概算要求額 3,000 (696)百万円の内数】

### <対策のポイント>

みどりの食料システム戦略の実現に向けて、それぞれの産地に適した「環境にやさしい栽培技術」と「省力化に資する先端技術等」を取り入れた「**グリーンな栽培体系**」への**転換**を推進するため、産地に適した技術を検証し、定着を図る取組を支援します。

### <事業の内容>

#### 1. グリーンな栽培体系への転換

農業生産における環境負荷軽減の取組を推進するため、各産地において、**グリーンな栽培体系への転換**に向けた以下の取組の検討を支援します。

- ① 産地に適した**環境にやさしい栽培技術**※、**省力化に資する先端技術等**の**検証**  
 ※ 化学農薬・化学肥料の使用量の低減、有機農業面積の拡大、温室効果ガスの排出量削減に資する技術
- ② ①の検証に必要な**スマート農業機械等**の導入
- ③ ①と併せて行う、環境に配慮して生産した農産物に対する**消費者の理解醸成**
- ④ **グリーンな栽培体系の実践**に向けた**栽培マニュアル**の作成  
産地内への普及に向けた**産地戦略 (ロードマップ)**の策定
- ⑤ **栽培マニュアル**や**産地戦略**の**関係者への情報発信** (HPへの掲載等)

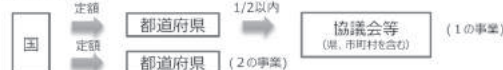
#### 2. 都道府県域への展開

**グリーンな栽培体系**を**都道府県域**に展開するため、展開先産地等における検討会や研修会の開催、展示ほの設置等の取組を支援します。

※以下の場合に優先的に採択します

- ・みどりの食料システム法に基づく**特定区域**において取組を行う場合
- ・事業実施主体の構成員 (農業者、民間団体等) が**みどり認定**等を受けている場合

### <事業の流れ>



### <事業イメージ>

**1. グリーンな栽培体系への転換**

検討会の開催：各産地の関係者による取組方針の検討等

検証に必要な**スマート農業機械等**の導入 (選択)

グリーンな栽培体系の検証：環境にやさしい栽培技術 + 省力化に資する先端技術等の検証

環境にやさしい栽培技術 (例)

省力化に資する技術 (例)

グリーンな栽培マニュアル、産地戦略 (ロードマップ) の策定

消費者の理解醸成 (選択)

- ・売り場の情報発信
- ・消費者向けセミナー開催
- ・農業体験 など

**2. 都道府県域への展開**

展開先産地等における検討会

研修会、実演会の開催

展示ほの設置

グリーンな栽培体系の都道府県域への展開

【お問い合わせ先】 農産局技術普及課 (03-3593-6497)

# 農作業安全の推進

【令和6年度予算概算要求額 46（44）百万円】

### <対策のポイント>

他産業並みの労働安全の実現に向け、農作業安全に係る普及啓発資料の作成や研修の実施を支援するとともに、農業機械の安全性能アセスメントの試験・評価手法を確立します。

### <事業目標>

農作業事故による死亡者数の減少

### <事業の内容>

#### 1. 持続的生産強化対策事業のうち農作業安全総合対策推進 26（23）百万円

##### ① 熱中症対策の啓発資料の作成・普及

農作業における熱中症対策のため、熱中症対策アイテム・MAFFアプリの活用、声かけ運動等を啓発したパンフレット、事例集を作成し、研修会・セミナーの開催により効果的な啓発・普及を図ります。

##### ② 農業機械の追突事故防止対策の普及

乗用型トラクターの交通事故の発生抑制及び被害軽減のため、追突事故防止に活用される反射板等に係る実証等を通じて効果的な追突防止対策の普及を図ります。

##### ③ 営農類型別の研修資料の作成

農作業安全に係る研修を効果的に行うため、営農類型別に農作業安全のための普及啓発資料を作成します。

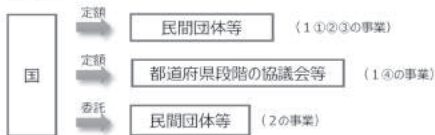
##### ④ 農作業安全に係る都道府県推進組織等への支援

都道府県段階の推進協議会等による研修の実施を支援します。

#### 2. 農業機械の安全性能アセスメント 20（21）百万円

農業機械の安全性能評価に係る試験・評価手法の確立に向けて、新機種における事故発生時の安全性能評価等を行うためのデータを収集し、農業機械の安全性能適合範囲の評価基準を作成します。

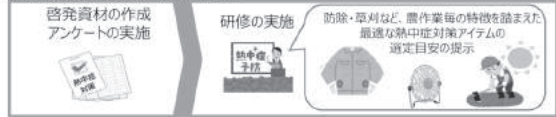
### <事業の流れ>



### <事業イメージ>

#### 1. 持続的生産強化対策事業のうち農作業安全総合対策推進

##### ① 熱中症対策の啓発資料の作成・普及



##### ② 農業機械の追突事故防止対策の普及



##### ③ 営農類型別の研修資料の作成



#### 2. 農業機械の安全性能アセスメント

##### ① 試験手法の確立

<事故発生時の安全性能評価>



<予防安全性能評価>



データ収集

試験手法の策定

##### ② 評価手法の確立

収集したデータ

○◎性能評価 △△性能評価 ××性能評価

評価基準の策定

【お問い合わせ先】 農産局技術普及課（03-6744-2111）

令和5年11月9日  
農林水産省農産局技術普及課  
「農水省情勢報告」より抜粋





# 日農工 だより

## 令和5年 日農工 地方大会の開催

令和5年11月9日(木)高知県高知市『ザ クラウンパレス新阪急高知』にて、令和5年度地方大会を開催いたしました。

議事内容は以下の通りです。

1. 会長挨拶
2. 来賓挨拶
3. 地方大会

- (1) 令和5年及び6年の需要見通しについて
- (2) その他：今後の主な行事予定

#### 4. 第168回理事会

- (1) 会長及び専務理事の職務執行状況報告について

#### 《 令和5年及び6年の需要見通し 》

国内出荷台数前年比(単位:%)

部会・委員会名	R4年 見通し	R4年 結果	R5年 見通し	R6年 見通し
トラクタ部会 ※	96	92.5	99	96
管理機部会	95	93.7	88	100
田植機部会 ※	95	93.0	88	97
収穫機部会				
コンバイン※	95	92.3	96	100
バインダ	84	70.0	82	90

防除機部会	75	77.8	86	107
動噴・動散計	75	77.7	86	107
走行式防除機計	78	83.5	91	106
刈払機部会	87	95.0	92	104
作業機部会	97	91.6	93	98
車両部会	83	87.0	88	97
調製・米選機部会				
脱穀機	94	83.4	74	95
籾摺機	87	93.6	111	96
米選機	89	91.7	88	95
乾燥機部会	89	93.3	96	100
精米機部会				
精米機	97	91.5	95	100
コイン精米機	96	89.3	94	102

日農工統計:輸出金額対前年比(単位:%)

国際委員会	94	92.6	80	108
-------	----	------	----	-----

※印は、実販台数見通し



令和5年地方大会

議事終了後、「花の間」にて懇親会が行われました。乾杯は地元高知県の(株)太陽の久松社長、中締めは金子農機(株)の金子社長に行っていました。

懇親会では高知の宴会で行われる「べく杯」「菊の花」等を体験。高知“酒文化”の洗礼を受けて、大いに盛り上がる会となりました。



懇親会の様子



可杯（べくはい）  
⇒ コマを回し、飲む人と杯を決める



令和6年1月10日(水)東京都港区白金台・八芳園にて、新年賀詞交歓会を開催いたしました。

開会に先立ち、1月1日に発生した能登半島地震で亡くなられた方々のご冥福を祈り、30秒間の黙祷が捧げられました。

木股会長の挨拶後、来賓として経済産業省橋本真吾審議官、農林水産省平形雄策農産局長から新年のご挨拶をいただきました。

次に能登半島地震被災地の復興と犠牲となった方々への追悼の意を込め“献杯”を執り行い、献杯の発声を三菱マヒンドラ農機(株)の齋藤社長、中締めをヤンマーアグリ(株)の増田社長に行ってください、令和6年新年賀詞交歓会が終了いたしました。

会員・関係省庁・関係団体を合わせ約200名の方々にご参加いただきました。年初のご多忙の折、ご参加いただき誠にありがとうございました。

本年も変わらぬご指導ご鞭撻の程、何卒よろしくお願い申し上げます。



会長・副会長による立礼



木股会長 新年のご挨拶



経済産業省大臣官房 橋本審議官



農林水産省 平形農産局長



会場の様子

## ◆ 投稿写真を随時募集しています！

ひまわりでは「フォトギャラリー」に掲載する投稿写真を募集しています。

デジタルカメラやスマートフォン等で撮影した写真データと一緒に、①タイトル ②コメント ③名前（ご希望の方はPN）④ご連絡先 を明記の上、広報委員会までメールにてご応募ください。

- ・ 季節を問わずジャンルは自由です。ただし、肖像権や著作権には十分ご注意ください。
- ・ 写真には必ずタイトルとコメントを添えてください。
- ・ 採用された方にはお礼の品を送らせていただきます。

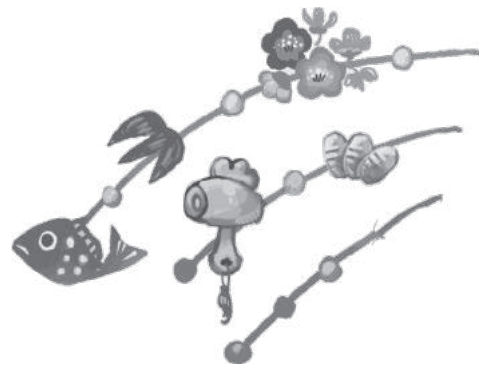
【応募先】（一社）日本農業機械工業会 広報委員会  
E-mail : sunflower@jfmma.or.jp

→詳しくは日農工のホームページをご覧ください。

<http://www.jfmma.or.jp/himawari.html>

## 今後の主なスケジュール

- ◇ 令和6年3月8日（金）幹部会・理事会  
機械振興会館（東京都港区芝公園 3-5-8）
- ◇ 令和6年6月6日（木）定時総会  
八芳園（東京都港区白金台）
- ◇ 令和6年10月29日（火）地方大会  
ホテルブエナビスタ（長野県松本市）





## 🌻 編集後記 🌻

### 変わりゆく神谷町駅周辺

▽ 日農工が入居している機械振興会館に会議等で来られた方も多いと思います。東京駅から地下鉄を乗り継いで神谷町駅で下車し、徒歩で飯倉交差点方向に歩きます。その途中の右側にいやおうなく視界に飛び込んでくるのが、森ビルが開発した「麻布台ヒルズ」です。以前は大小のビルや家屋が雑然としていましたが、麻布台ヒルズが2023年11月24日に開業して、神谷町駅周辺は大きく様変わりしてしまいました。テナントのお店はヒルズ価格のためちょっとお高いです。



AZABUDAI HILLS



ビルの隙間に八幡神社



変わらないのは、オランダ大使館、大使公邸あたり、、、。

▽ ところで、世界中であれだけ大騒ぎしていた新型コロナ(COVID-19)も今はすっかり忘れ去られようとしていますが、いったいアレは何だったのでしょうか。この平穏な日々がいつまでも続きますように、アーメン。

---

ひまわり 一日農工会報 Vol. 79 / 新春号

令和6年(2024年)2月1日発行

発行人 / 田村敏彦

発行所 / 一般社団法人 日本農業機械工業会

〒105-0011 東京都港区芝公園3丁目5番8号(機械振興会館)

TEL 03-3433-0415 / FAX 03-3433-1528

URL <http://www.jfmma.or.jp>

E-mail [sunflower@jfmma.or.jp](mailto:sunflower@jfmma.or.jp)

